

環境経営レポート



大船渡湾

令和5年6月12日 発行

地域と共に、未来を築く

特定建設業

 株式会社 菊池組

目次

1	環境経営方針	1
2	会社概要	2
3	対象範囲	3
4	環境活動実施体制	3
5	環境経営目標	4
6	環境経営計画	5
7	環境経営目標の達成状況と評価	6
8	環境経営計画の実施状況及び評価	7
9	環境関連法規等の遵守状況の確認	8
10	環境経営目標と計画の評価・結果についての考察	9
11	代表者による全体評価・見直し・指示	11
12	評価後の環境経営計画	12
13	その他環境保全活動	13

地域と共に、未来を築く

特定建設業



株式
会社

菊池組

1. 環境経営方針

環境基本理念

建設業は公共性が高く自然との関わりがとて深い業種です。ですが建設業の事業そのものが自然環境を変化させるものであり、同時に重機や車両の使用で環境に負荷を与てきました。

私たち 株式会社 菊池組はかねてより『地域と共に、未来を築く』が経営理念です、まさに地域と未来のために、自然環境に負荷を与えてきたことを真摯に受け止め、「エコアクション21環境マネジメントシステム」を導入し、全社を挙げて環境負荷低減・環境保全活動を定着・向上させていくことを宣言します。

環境経営方針

建設業は公共事業の減少や、担い手不足、燃料費・物価の高騰により厳しい状況である。

このような社会情勢において、省エネ化・省人化を図り、省エネ・人的資本に投資することで企業力を高める。

行動指針

燃料、電力等のエネルギー使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減します。
廃棄物排出量を抑制して、資源のリサイクル化を促進します。

環境関連法規を遵守します。

環境保全に関する社会貢献活動を推進します。

社員のスキルアップ、資格取得を推進し、生産性を高める。

上記の環境方針を達成するために、教育や日常活動を通じて全従業員に周知徹底するとともに、環境保全に関する知識を深め、環境保全に対する意識の向上を図ります。

制定日 2022年10月1日

地域と共に、未来を築く

特定建設業



株式
会社

菊池組

代表取締役 佐々木 孝雄



2. 会社概要

組織の概要

社名

株式会社 菊池組

代表者

代表取締役 佐々木 孝雄

本社所在地

〒022-0002

岩手県大船渡市大船渡町字地ノ森61番地7

TEL. 0192-27-7700

FAX. 0192-27-7701

資本金

3,000万円

創業

昭和18年5月20日

従業員数

33名(令和4年5月現在)

役員

代表取締役 佐々木 孝雄

取締役 笹野 幸信

取締役 工藤 敏英

取締役 早坂 浩子

監査役 山元 一典

許認可業種

- ・特定建設業【岩手県知事許可(特-4)第890号】
- ・一般建設業【岩手県知事許可(般-4)第890号】
- ・排水設備工事指定店【大船渡市指定下水第6-28号】

業務内容

総合建設業

・土木工事一式

土工・舗装・解体

・建築一式

認証等

いわて子育てにやさしい企業

いわて女性活躍認定企業 ステップ2

大船渡市消防団協力事業所認定

予備自衛官等協力事業所認定

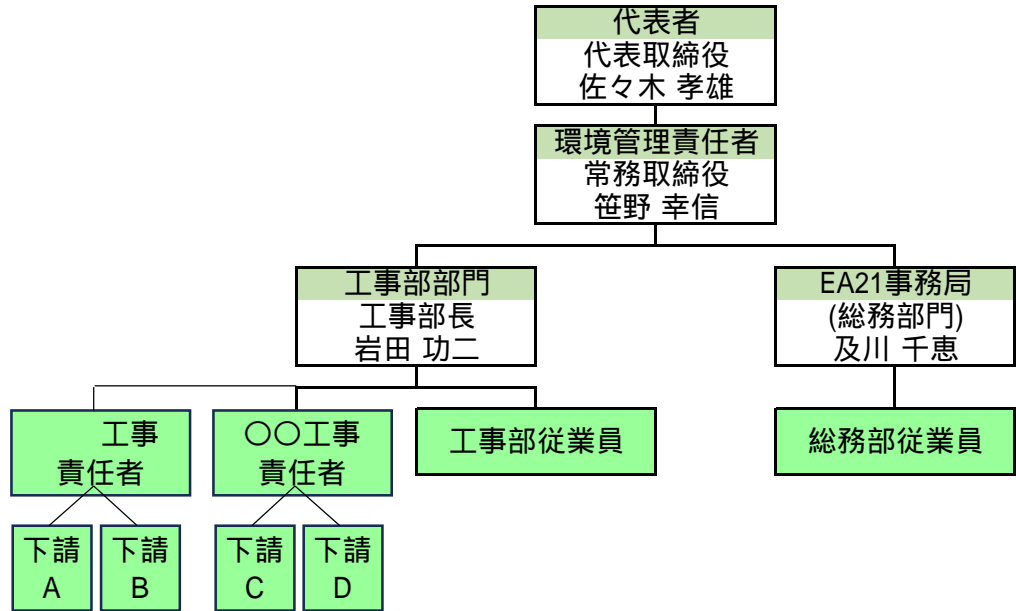
3. 対象範囲

認証・登録の範囲
 全組織(総合建設業)、全活動、全従業員
 本社、本社倉庫、山馬越資材置場

レポートの対象期間 2021年6月1日 ~ 2022年5月31日

レポートの発行日 2023年6月12日

4. 環境活動実施体制



環境管理システム 役割・責任・権限	
代表者 代表取締役 佐々木 孝雄	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システム実施に必要な人、設備、費用、時間、技能・技術者を準備 環境管理責任者を任命(兼任) 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標、環境経営計画・環境管理実施体制を承認 代表者による全体評価と見直し実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 常務取締役 笹野 幸信	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標、環境経営計画・環境管理実施体制を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
EA21事務局 及川 千恵 (総務部門)	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画・環境管理実施体制原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開
部門長 工事部 岩田 功二 総務部 及川 千恵	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境方針の周知、従業員への環境教育訓練実施 自部門に係る環境活動計画の実施、達成状況報告 自部門に係る緊急事態訓練の実施 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
各工事現場責任者	
各下請け業者	

5. 環境経営目標

基準年を2021年6月1日～2022年5月31日の1年間とする。(以後も年度を6月1日～5月31日とする)

項目	単位	基準年実績 2021.6.1 ～2022.5.31	中長期目標			
			2022年度 (目標削減率)	2023年度 (目標削減率)	2024年度 (目標削減率)	
二酸化炭素排出量	1)電力の削減					
	電気使用量	KWh	34,165	33,994 -0.5%	33,823 -1.0%	33,653 -1.5%
		0.483kg-CO2/L	16,502	16,419 -0.5%	16,337 -1.0%	16,254 -1.5%
	2)自動車等燃料の削減					
	ガソリン	L	29,275	28,396 -3.0%	27,811 -5.0%	27,225 -7.0%
		2.32kg-CO2/L	67,917	65,880 -3.0%	64,521 -5.0%	63,163 -7.0%
	軽油	L	118,400	114,848 -3.0%	112,480 -5.0%	110,112 -7.0%
		2.58kg-CO2/L	305,471	296,307 -3.0%	290,197 -5.0%	284,088 -7.0%
	CO2排出量合計		389,890	378,193 -3.0%	370,395 -5.0%	362,598 -7.0%
	廃棄物削減排出量	1)一般廃棄物				
一般廃棄物		kg	565	562 -0.5%	560 -1.0%	557 -1.5%
2)産業廃棄物						
産業廃棄物		kg	274,740	273,366 -0.5%		
再生資源化 (リサイクル化)		kg	261,030	259,725 -0.5%		
		%	95.0%	95.5% 0.5%	96.0% 1.0%	96.5% 1.5%
その他	1)水使用量の削減					
	水使用量	m3	565	548 -3.0%	537 -5.0%	525 -7.0%
	2)化学物質の使用量削減(工事内容による)					
	環境負荷が少ない材料の選定					
	無駄なく使用する(適切な施工計画作成・使用数量の把握)					
	3)環境保全への協力及び活動					
	ボランティア活動	回	3	3	3	3
	勉強会・セミナー受講	回	0	1	1	1
	4)社員のスキルアップ・生産性向上					
	資格取得・セミナー受講数		30	30	30	30

実績評価： よくできた できた まあまあ ×できなかった

< 補足事項 >

- ・目標値は項目ごとに設定する。
- ・二酸化炭素排出量係数は、環境省公表の係数で換算しています。
- ・産業廃棄物排出量は工事により大幅に変動するため、再資源化率のみ目標・評価を設定する。

6. 環境経営計画

二酸化炭素排出量の削減

1) 電力の削減

- ・ 人のいない場所の照明は消す(昼休み12:00～13:00完全消灯)
- ・ コピー機は節電モードに設定
- ・ パソコン電源OFF(外出時、退社時)
- ・ エアコンの稼働改善
(終業前は早めの電源オフ・適正気温時の電源オフ)
- ・ エアコンの稼働環境改善
(戸締めりの徹底、夏季はブラインドなどで遮光)

2) 自動車燃料等の削減

- ・ エコドライブの推進(急の付く運転の防止・アイドリングストップ・ドラレコの設置)
- ・ 計画的な運行(ルート選定・外出回数を減らす)
- ・ 現場移動は乗り合わせで

廃棄物排出量の削減

1) 一般廃棄物

- ・ ゴミの分別(紙、段ボール、ペットボトル)、再資源化
- ・ ペーパーレス化の推進
- ・ コピー用紙の削減(社内回覧等は裏紙利用)

2) 産業廃棄物

- ・ 分別の徹底
- ・ 設計数量と実績数量の比較管理
- ・ 処分業者の選定(再生資源化優先)

その他

1) 水使用量の削減

- ・ 社内水道利用時「節水」啓発(掲示)

2) 化学物質の使用量削減(工事内容による)

- ・ 環境負荷が少ない材料の選定
- ・ 無駄なく使用する(適切な施工計画作成・使用数量の把握)

3) 環境保全への協力及び活動

- ・ 地域の清掃活動(ボランティア活動)
- ・ 環境に関する勉強会開催・セミナー等の受講

4) 社員のスキルアップ・生産性向上

- ・ 資格取得・セミナー受講の推進(資格取得・講習・セミナー受講数で判断)
- ・ 過去の工事データ・作成した様式などを社内オンラインストレージで共有する
- ・ 若手が経験を積む機会を増やす

(社員のスキルアップ・生産性向上により、無駄・残業・休日就労の削減)

7. 環境経営目標の達成状況と評価

基準年との評価のために実績評価期間を1年間として評価を行った。

評価基準期間：2021年6月1日～2022年5月31日

実績評価期間：2022年6月1日～2023年5月31日

実績評価の目標値は、基準期間の値に2022年度目標率を乗じた値とする。

項目	単位	基準期間 実績値	目標率	目標値	実績	達成率	評価	
二酸化炭素 削減 排出量	1)電力の削減							
	電気使用量	KWh	34,165	-0.5%	33,994	40,638	19%	×
		0.483kg-CO2/L	16,502	-0.5%	16,419	19,628	19%	
	2)自動車等燃料の削減							
	ガソリン	L	29,275	-3.0%	28,396	23,209	-21%	
		2.32kg-CO2/L	67,917	-3.0%	65,880	53,844	-21%	
	軽油	L	118,400	-3.0%	112,480	51,755	-56%	
2.58kg-CO2/L		305,471	-3.0%	303,944	133,529	-56%		
CO2排出量合計	CO2/L	389,890	-3.0%	386,243	207,001	-47%		
廃棄物 削減 排出量	1)一般廃棄物							
	一般廃棄物	kg	565	-0.5%	562	605	7%	×
	2)産業廃棄物							
	産業廃棄物	kg	274,740			624,132		
	再資源化	kg	261,030			605,842		
再資源化率	%	95.0%	0.5%	95.5%	97.1%	2%		
その他	1)水使用量の削減							
	水使用量	m3	565	-3.0%	548	559	-1%	
	2)化学物質の使用量削減(工事内容により変動が大きい)							
	当社では、PRTR制度対象の化学物質を請負工事以外で使用・廃棄することは無い。 請負工事で使用する場合は発注者指定規格製品を使用するため、削減は困難。							
	3)環境保全への協力及び活動							
	ボランティア活動	回	3	-	3	4		
	勉強会・セミナー受講	回	0	-	1	1		
4)社員のスキルアップ								
資格取得・セミナー受講回数		30	-	30	26	-13%		

実績評価：よくできた できた まあまあ ×できなかった

8. 環境経営計画の実施状況及び評価

評価基準期間：2021年6月1日～2022年5月31日

実績評価期間：2022年6月1日～2023年5月31日

2023年6月1日以降も取組継続

環境経営計画	実績評価	今後の取組及び対策等
1、二酸化炭素排出量の削減		
1) 電力の削減		
・人のいない場所の照明は消す(昼休み12:00～13:00完全消灯)		あまりできていない(継続)
・コピー機は節電モードに設定		あまりできていない(継続)
・パソコン電源OFF(外出時、退社時)		あまりできていない(継続)
・エアコンの稼働改善 (終業前は早めの電源オフ・適正気温時の電源オフ)	×	出来ていない、掲示などで啓発活動を行う
・エアコンの稼働環境改善 (戸締まりの徹底、夏季はブラインドなどで遮光)	×	出来ていない、掲示などで啓発活動を行う
2) 自動車燃料等の削減		
・エコドライブを心がける (急発進・急加速・急停止の防止、アイドリングストップ)		できた(継続)
・計画的な運行(ルート選定・無駄を省き効率化)		できた(継続)
・現場移動は乗り合わせて		あまりできていない(継続)
2、廃棄物排出量の削減		
1) 一般廃棄物		
・ゴミの分別(紙、段ボール、ペットボトル)、再資源化		あまりできていない(継続)
・ペーパーレス化の推進	×	出来ていない、会議・朝礼等で周知徹底を行う
・コピー用紙の削減(社内回覧等は裏紙利用)		あまりできていない(継続)
・レジ袋の削減(マイバック推進)	×	出来ていない、会議・朝礼等で周知徹底を行う
2) 産業廃棄物		
・分別の徹底		あまりできていない(継続)
・設計数量と実績数量の比較管理		できた(継続) 原因がわかっていたため設計変更の対象となった
・処分業者の選定(再生資源化優先)		できた(継続)
3、その他		
1) 水使用量の削減		
・社内水道利用時「節水」啓発(掲示)		よくできた(継続)
2) 化学物質の使用量削減(工事内容による)		
・環境負荷が少ない材料の選定	-	発注者指定規格製品を使用のため、無評価。
・無駄なく使用する(適切な施工計画・実施)	-	発注者指定規格製品を使用のため、無評価。
3) 環境保全への協力及び活動		
・地域の清掃活動(ボランティア活動)		よくできた(継続)
・環境に関する勉強会開催・セミナー等の受講		できた(継続)
4) 社員のスキルアップ・生産性向上		
・資格取得・セミナー受講の推進(資格取得数・CPDSユニット数で判断)		あまりできていない(継続)
・過去の工事データ・作成した様式などを社内オンラインストレージで共有する		できた(継続)
・若手が経験を積む機会を増やす		できた(継続)

実施評価：よくできた ○できた あまりできていない ×できなかった 7

9 環境関連法規等の遵守状況の確認

環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適応される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
2022年10月1日現在

法規等の名称	チェック項目	結果
廃棄物処理法	産業廃棄物の適正処理(処分業者との委託)	
	産業廃棄物収集運搬業許可更新	
	不法投棄の禁止	
	廃棄物の処理は、収集・運搬・処分の許可を受けた業者へ委託する	
建設リサイクル法	対象工事の事前届出等の義務付け	
	分別解体等及び再資源化等の実施義務	
	再生資源の利用	
岩手県 生活環境保全条例	焼却行為に関する規制	
	アイドリングストップに関する規制	
循環型社会形成推進法	廃棄の抑制	
環境基本法	公害防止・自然環境の保全	
建設業法	建設業の許可	
	経営事項の審査	
	標識の掲示	
建設リサイクル法	発注者への計画等説明と完了報告	
	建設廃棄物の発生を抑制し、再資源化に努めているか？	
	下請負人の建設廃棄物の再資源化を指導しているか？	
	再生資源の利用	
建設廃棄物処理マニュアル	マニフェストに基づく適正処理の実施	
建設機械の排出ガス規制	排出ガス対策型建設機械使用の確認	
騒音規制法	特定建設作業の実施の届出	
	作業敷地境界にて85デシベル以下	
	区域や作業時間帯が守られているか	
振動規制法	特定建設作業の実施の届出	
	作業敷地境界にて75デシベル以下	
	区域や作業時間帯が守られているか	
グリーン購入法	できる限り環境物品等の購入に務める	
消防法	火気の使用(電気溶接・ガス溶接・プロパンガス・灯油など)の取扱い	
家電リサイクル法	家庭用エアコン、洗濯機、冷蔵庫の廃棄時に適正に管理	
PCリサイクル法	廃棄時に適正に管理	
自動車リサイクル法	廃棄時に適正に管理	
水質汚濁防止法	水質汚濁の負荷の低減	
道路法	損傷、汚損の禁止	

10. 環境経営目標と計画の評価・結果についての考察

1. 二酸化炭素排出量は目標を達成。

電力使用量は悪化した。

基準年に比べ閑散期が期間が長かったことで本社工事部の在室率が多く、パソコン・照明・エアコンの使用が多くなり、気温が例年より夏場は高く冬季は低かったため、エアコンの稼働率が高く推移した。更に、感染症対策のため換気を多く行なった事でエアコンの負荷が増大したと考えられる。

電力消費削減するため、今後は特にエアコンの高効率化、温度設定の徹底などさらなる対策を強化が必要である。

長期的には、冬の暖房はエアコンに変わる機器や遮熱・保温対策窓・戸などや、照明ではLED照明に切り替えるなどの対策を考慮すべきである。

燃料等の消費量削減は達成した。

一番の要因は請負工事量の減少。しかし、工事内容や工事量が違うため単純には比較できるものではないが、繁忙期(10月～翌年3月)の軽油消費実績を見ても確実に燃料消費が減少しているため、今後も取り組みを継続する。



2. 廃棄物排出量の削減

一般廃棄物は、閑散期に社内の不要物の整理を行ったため数量的には目標を達成できなかった。しかし、数字には現れていないが、前年に比べてペットボトルや紙類は分別され、リサイクル業者へ排出したため再資源化は進んでいる。

一方、ペーパーレス化推進やマイバック使用・弁当容器削減にはまだ改善の余地があるので、取り組み強化が必要。

産業廃棄物も社内の不要物整理や、下水道工事請負により処理数量は大幅に増えた。工事内容により廃棄物量が大きく変わるの避けられないが、材料ロス率の低減などにより改善の余地がある。

再資源化率は達成できているので、取り組みを継続する。

3. その他

1) 水使用量は、目標を達成しているため取り組みを継続する。

2) 化学物質の使用した工事は1つ。

発注者が指定した規格を満たす、製品でPRTR制度対象物質を含まないものはないか商社を通じて調査したが、規格を満たすものは無かった。今後も、調査して選定を行う。

3) 環境保全への協力及び活動は、今までは工事ごとにボランティア活動を行うことがあったが、今年度から社を挙げて計画的に活動を行うこととなったため目標を達成した。

ボランティア活動を行うことにより、社員の環境意識高揚につながるため、継続していくこととする。

4) 社内勉強会は、公共工事受注に関する勉強会の中で、環境に関する取り組みの重要性を伝え、このEA21環境経営レポートを利用し具体的な取り組みを周知し、社員の意見も聞くことが出来たので有意義であった。当然、今後も継続する。

定例会議(月1回)で環境取り組み変更や追加対策の周知を図った、今後も継続する。

また、岩手県が開催のエコスタッフ養成セミナーを社員2名が受講した。

5) 社員のスキルアップ・生産性の向上

資格取得・セミナーの受講が減少。

特にオンラインセミナーの受講が減少した。原因は[過去に受講したものと同様のセミナーが多かった][社員の希望のセミナーがあまりなかった][社員4人が資格取得(施工管理技士)の勉強に専念していた]

次年度は、CPDS講習にこだわらず、情報を集めて受講の機会を増やしたい。

生産性向上については、社内オンラインストレージへ各自が作り上げた、エクセル・ワード等のデータを共有できるようにした。以前は各自がそれぞれ様式を作ってきたが、自由に共有することにより、データを使い回せるので生産性が向上した。

また、過去の工事データを共有することで、過去の工事打合簿を閲覧して参考にすることができ、どのように発注者と協議すべきか、どのような資料を取り揃えるべきか、考えがまとまりやすく生産性向上につながった。

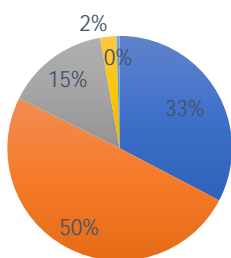
若手が経験を積む機会を増やすため、今まではベテランばかり現場配置していたが、若手とベテランをセットに配置する機会を増やした。

効率が落ちる場面も有ったが、長期的には生産性向上につながる事なので今後も継続する。

長期的には、ICTに段階的に取り組むべきである。

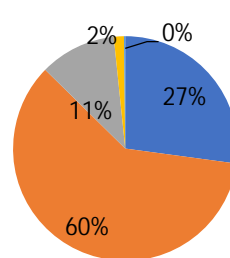
二酸化炭素排出量比較

2021年度 本社



■電力 ■ガソリン ■軽油 ■灯油 ■LPG

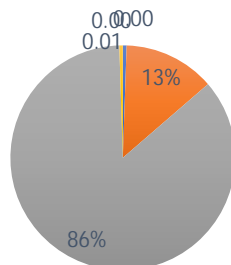
2022年度 本社



■電力 ■ガソリン ■軽油 ■灯油 ■LPG

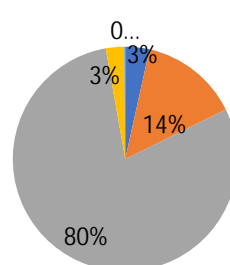
2022年度はガソリンの割合が高まったのは、新型コロナウイルス対策が緩和され、移動が多くなったと推測。

2021年度 工事現場



■電力 ■ガソリン ■軽油 ■灯油 ■LPG

2022年度 工事現場



■電力 ■ガソリン ■軽油 ■灯油 ■LPG

2022年度は工事請負額が減少、軽油の割合が減少したのは工事量の減少により軽油を多く使用する重機の稼働が減ったことが原因だと思われる。

社内全体		
エネルギー使用量		
	2021年度	2022年度
電力 kWh	34,165	40,638
ガソリン L	29,275	23,209
軽油 L	118,400	51,755
灯油 L	1,101	1,999
LPG kg	65	93

社内全体		
Co2排出量(kg-CO2)		
	2021年度	2022年度
電力	16,502	19,628
ガソリン	67,917	53,844
軽油	305,471	133,529
灯油	2,741	4,978
LPG	195	280
合計	392,827	212,259

CO2排出コスト		
	2021年度	2022年度
電力	59	69
ガソリン	64	66
軽油	50	52
灯油	39	40
LPG	349	380
合計	53	57
	円/kg-CO2	

左表はCO2を1kg-CO2排出するのに掛かるコストである。表からわかるように、2022年度はどの品目もコストアップ。2023年度は更に上昇が見込まれるので、経営面からも、脱炭素化が重要である。

1.1. 代表者による全体評価・見直し・指示

項目	変更の有無	見直しの指示事項等
環境経営方針	無し	変更なし
環境活動実施体制	無し	変更なし
環境経営目標	無し	変更なし
環境経営計画	有り	対策項目を追加指示
環境関連法規等の遵守	無し	変更なし

全体評価

エコアクション21に取り組みをはじめてから、今まで無かった環境に対する社員の視点や意識が広がりはじめたと感じます。

これまでも省エネ対策などの活動をしていましたが、エコアクション21を導入し、明確に体制・目標・計画・実績・評価などの我が社の環境取組が「見える化」されたことにより、原因や対策もわかりやすくなりました。

個別に見ていくと、環境経営方針や体制・目標は妥当なものですが、二酸化炭素排出量削減の目標は達成できたが、電力使用量が悪化したので改善の指示を出しました。

次に一般廃棄物の排出量が大幅に悪化した、これは長年保存していた書類や不要物を処分した結果なので仕方のないことではあるが、ペーパーレス化が浸透している昨今に於いて、我が社はまだまだ紙面による資料や書類の文化が残っているので、ペーパーレス化を推進して紙の使用を減らし、更に分別を徹底し廃棄物排出量を削減するよう指示した。

上記の2項目以外は目標を達成しており、今後も継続するものとする。

今後については、目標達成という数値的なものも大事だが、エコアクション21に取り組むことで向上した社員の環境に対する意識を保つ工夫が重要であると考えられるので、全社を上げて取組めます。

2023年5月31日

株式会社 菊池組
代表取締役 佐々木 孝雄

12. 評価後の環境経営計画

今年度の実績評価から明らかになった改善点に対して対策を追加した。

二酸化炭素排出量の削減	
1) 電力の削減	
・人のいない場所の照明は消す(昼休み12:00～13:00完全消灯)	継続
・コピー機は節電モードに設定	継続
・パソコン電源OFF(外出時、退社時)	継続
・エアコンの稼働改善 (終業前は早めの電源オフ・適正気温時の電源オフ)	継続
・エアコンの稼働環境改善 (戸締まりの徹底、夏季はブラインドなどで遮光)	継続
・エアコンの温度設定 夏季26度 冬季22度	追加
・エアコンと合わせサーキュレーターを使用し、冷暖房の高効率化を図る	追加
・現場事務所の電力使用取組状況を確認する	追加
2) 自動車燃料等の削減	
・エコドライブの推進(急の付く運転の防止・アイドリングストップ・ドラレコの設置)	継続
・計画的な運行(ルート選定・外出回数を減らす)	継続
・現場移動はできるだけ乗り合わせして、使用台数を減らす。	継続
・車両の燃料補給時の走行距離を記録して燃料消費量を継続的に計測する。	追加
・タイヤの空気圧を最低月1回点検・補充する	追加
廃棄物排出量の削減	
1) 一般廃棄物	
・ゴミの分別(紙、段ボール、ペットボトル)、再資源化	継続
・ペーパーレス化の推進	継続
・zoom会議の推進(会議資料はPDF=紙資料削減)	追加
・コピー用紙の削減(社内回覧等は裏紙利用)	継続
・ミスプリント削減(印刷前の確認の徹底)	追加
・レジ袋の削減(マイバック推進)	継続
2) 産業廃棄物	
・分別の徹底	継続
・処分業者の選定(再生資源化優先)	継続
その他	
1) 水使用量の削減	
・社内水道利用時「節水」啓発(掲示)	継続
2) 化学物質の使用量削減(工事内容による)	
・環境負荷が少ない材料の選定	継続
・無駄なく使用する(適切な施工計画作成・使用数量の把握)	継続
3) 環境保全への協力及び活動	
・地域の清掃活動(ボランティア活動)	継続
・月1回の定例会議で環境に関する項目を議題とする(変更点周知や状況報告など)	追加
4) 社員のスキルアップ・生産性向上	
・資格取得・セミナー受講の推進(資格取得・講習・セミナー受講数で判断)	継続
・過去の工事データ・作成した様式などを社内オンラインストレージで共有する	継続
・若手が経験を積む機会を増やす	継続
(社員のスキルアップ・生産性向上により、無駄・残業・休日就労の削減)	

13.その他環境保全活動

月日	実施項目	内容
令和4年5月14日	ボランティア	大船渡市市道 道路清掃活動 下館下地区
令和4年5月21日	ボランティア	大船渡市市道 道路清掃活動 佐野橋
令和4年6月2日	ボランティア	大船渡市市道 草刈り 山馬越地区
令和4年6月18日	ボランティア	国道107号 支障木伐採 日頃市地区
令和4年7月4日	無償奉仕活動	建設業ふれあい体験会 (立根小学校)
令和4年7月20日	ボランティア	大船渡市市道 草刈り 山馬越地区
令和4年9月2日	防災訓練	津波避難訓練・油脂流出訓練・防火訓練
令和4年9月8日	セミナー受講(社外)	エコスタッフ養成セミナー(岩手県主催)受講 2名
令和4年9月15日	ボランティア	大船渡市市道 草刈り 山馬越地区
令和4年10月14日	社内セミナー・勉強会	地球環境にやさしくなろうセミナー(オンライン)
令和4年10月21日	社内セミナー・勉強会	地球環境にやさしくなろうセミナー (対面)
令和4年12月28日	社内セミナー・勉強会	社員能力向上・安全対策勉強会
令和5年1月31日	ボランティア	大船渡市市道 歩道除雪 地ノ森地区
令和5年2月10日	ボランティア	大船渡市市道 歩道除雪 地ノ森地区

その他 環境保全活動(写真1)

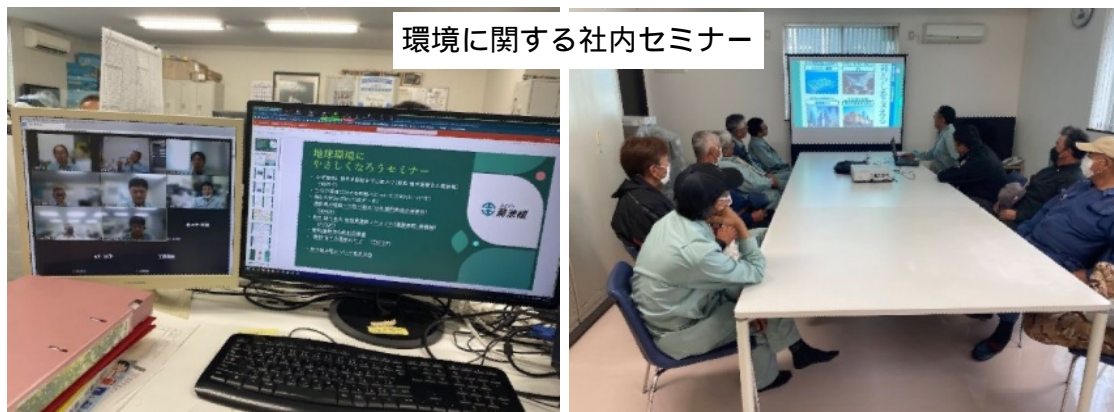


その他環境保全活動(写真2)

社員能力向上・安全対策勉強会(意見交換会)



環境に関する社内セミナー



避難訓練



油脂流出対策訓練



消火訓練

